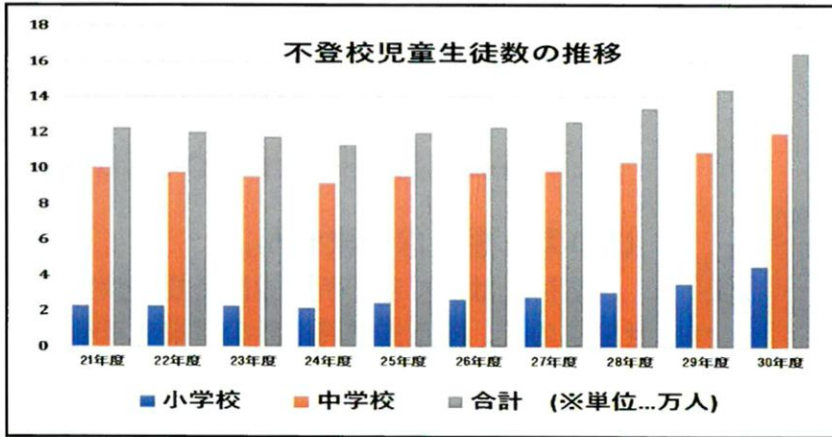


一人ひとりが大切にされる教育を

「1年単位の変形労働時間制」で教育はよくなる



少子化なのに増える「不登校」

昨年度さまざまな理由で学校を長期間休んでいる子どもたちが、全国で16万人を超えています。これは一つの市の人口に匹敵する数です。今の学校が子どもたちにとって息苦しくなっていることを表しているのではないのでしょうか？

教員が子どもの思いや悩みをゆっくり聞ける時間はあるのでしょうか？

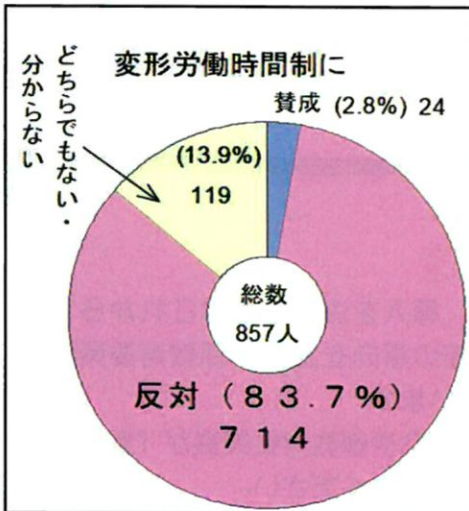
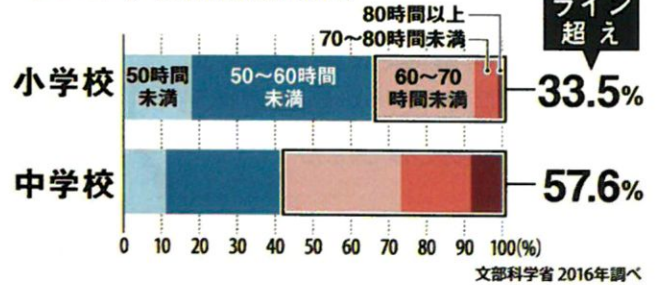
子どもたちとゆっくり話す時間がほしい！

私たちの願いは一人ひとりが大切にされる教育です。しかし、現状は教員として一番大切な授業の準備や子どもとゆっくり話し合う時間が奪われています。

「変形」が導入されても問題は解決しないばかりか、ますます忙しくなることが予想されます。

そうなると、教員が子どもたち一人ひとりとふれあう時間が今よりなくなってしまいます。

教員の1週間あたりの学校内勤務時間



「やらなくてはいけないこと」(〇〇の取り組み、書類、報告書等)を減らしてもらわないと、一番大切な「子どもへの指導」を見失ってしまいそうです。

連日14時間近く働いている状態です。命を削っている日々、過労死しないか心配です。

(都教組北多摩西支部のアンケートより)

他の職種へも？～定額働かせ放題～

教員は4%の手当(月約8時間分)が付くだけで、「残業手当」はありません。そのうえ、「変形」を労使の話合いなしに導入できるとしました。働く人たちの権利を根本から奪うものです。

これは他の職種に広がるのが予測されます。使用者が労働者を定額で長時間働かせる土台をつくることになってしまいます。



先生を増やし、少人数学級に

今こそ一人ひとりを大切にする教育が求められています。子どもたち一人ひとりに先生目がゆきとどくよう、国や文科省がまずやるべきことは、先生を増やし少人数学級を全学年で実施することです。

さらに、先生たちが授業の準備や子どもたちとゆっくり話す時間がもてるように、教育委員会への報告や「〇〇教育」の押しつけなどの大幅な削減を急ぐべきです。